

音楽学部・人文学部教員年次研究報告書

(2005 年 1 月～12 月)

本学教員の教育研究活動の一部を学内外に報告することを目的として、例年どおり「研究論集」に「教員年次報告」を掲載いたしております。大学の自己点検・自己評価に役立てることができれば幸いです。(掲載はアイウエオ順)

【音楽学部】

石 村 真 紀

1. 月刊誌『ムジカノーヴァ』音楽之友社「ピアノ教師のための音楽療法入門」連載 2005 年 3 月
2. 季刊誌『ザ・ミュージックセラピー』音楽之友社「音楽療法入門編」連載 2005 年夏号
3. 生涯学習音楽指導員養成講習会(講師) 財団法人音楽文化創造主催 大阪音楽大学 2005 年 3 月 12 日
4. 即興ピアノデュオコンサート 共演:野村誠 京都プロアルテホール 2005 年 5 月 1 日
5. 講演 ミュージックセラピー研究会 東京セミナー「音楽療法家の視点から見たセラピーのポイント」東邦音楽大学 2005 年 8 月 6・7 日
6. 講演 第 47 回ミュージックセラピー研究会 山松質文先生追悼セミナー「山松氏から学んだもの」京都プロアルテホール 2005 年 11 月 3 日
7. 講演 平成 17 年度第 2 びわこ学園公開講座「音・音楽によるコミュニケーションー音楽療法ー」2005 年 11 月 19 日

*主な活動:兵庫県音楽療法士認定審査委員

日本音楽療法学会評議委員(近畿支部倫理委員長)

*主な研究課題:広汎性発達障害(主に自閉症)の臨床

音楽療法における即興性と表現活動の臨床的意義

小 栗 まち絵

1. 小栗まち絵ヴァイオリン・リサイタル(第 34 回 2004 年度 エクソンモービル音楽賞受賞記念) 2005 年 2 月 15 日 いずみホール モーツァルト:ソナタ 変ホ長調 K 380、バッハ:無伴奏パルティータ第 2 番 BWV

- 1004、イザイ：無伴奏ソナタ第5番 op. 27-5、ドビュッシー：ソナタ ト短調、ラヴェル：ツイガース 共演：上田晴子（ピアノ）
2. ビオラスペース 2005 2005年5月28日 紀尾井ホール ヒンデミット：8重奏曲 共演：清水直子、ガース・ノックス（ヴィオラ）他 2005年5月29日 紀尾井ホール バルカウスカス：ヴァイオリンとヴィオラの為の2重協奏曲 作品 122（日本初演） 共演：今井信子（ヴィオラ）下野竜也指揮桐朋学園オーケストラ
3. いずみシンフォニエッタ大阪第9回定期演奏会 2005年1月29日 いずみホール 西村朗：室内交響曲第3番（世界初演）他
4. いずみシンフォニエッタ大阪第10回定期演奏会 2005年7月2日 いずみホール 池辺晋一郎：「降り注ぐ…」室内オーケストラのための（世界初演）他
5. いずみシンフォニエッタ大阪第11回定期演奏会 2005年11月4日 いずみホール ユン・イサン：室内交響曲第2番（日本初演）他
6. いずみシンフォニエッタ大阪・東京公演 2005年11月16日 紀尾井ホール 西村朗：室内交響曲第1番、カーゲル：フィナーレ他
7. 大阪シンフォニカー交響楽団特別演奏会 2005年12月21日 ザ・シンフォニーホール モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K216 共演：大山平一郎（指揮）

*主な活動：第74回日本音楽コンクール審査員

第59回全日本学生音楽コンクール審査員

第9回松方ホール音楽賞選考委員

第10回 KOBE 国際学生音楽コンクール審査員

高 橋 滋 子

1. 『新しい日本歌曲Ⅰ』所収「道のかなたに」（高橋滋子作曲）全音楽譜出版社 2005年9月
2. 第38回「新しい日本の歌」発表演奏会において「川の歌」（高橋滋子作曲）初演。2005年9月21日 東京津田ホール
3. 「創作歌曲の夕べ2005」日本歌曲振興会定期演奏会において「りんごは熟れて」（高橋滋子作曲）初演。2005年11月8日 東京文化会館小ホール

田 辺 良 子

1. 田辺良子ヴァイオリンリサイタル 2005年3月30日 青山音楽記念館 Pf

岡原慎也 タルティーニ「悪魔のトリル」他

2. 田辺良子ヴァイオリンリサイタル 2005年4月20日 ロベルト・シューマン大学(ドイツ) Pfアレクサンダー・シュマルツ タルティーニ「悪魔のトリル」他
3. 田辺良子室内楽演奏会 2005年4月22日 ロベルト・シューマン大学(ドイツ) 共演: キャロリーナ・クルコフスキベレ、ライラ・ブラウン、クラウス・ライヒャルト、アレクサンダー・シュマルツ ブラームス: ピアノ四重奏曲 op. 25、シューマン: ピアノ五重奏曲 op. 44
4. 歴史と共に楽しむ音楽会 2005年5月13日 京都文化博物館 共演: 日野俊介、平田葉子 メンデルスゾーン: ソナタ op. 4、トリオ op. 49 他
5. こんごう Gala コンサート 2005年7月24日 さやかホール Pf 富岡順子 サンサーンス「序奏とロンド・カプリチオーソ」他
6. アンサンブル・ベガ演奏会 2005年8月17日 NHK 大阪ホール 共演: 宮川彬良、辻井 淳、馬淵昌子、近藤浩志、鈴木豊人、星野則雄、池田重一 サンサーンス「動物の謝肉祭」他
7. いずみシンフォニエッタ東京公演 2005年11月16日 紀尾井ホール 西村 朗: 室内交響曲 1 番他
8. ぬくもりコンサート 2005年11月27日 平成大野屋平蔵 共演: 山本真美、羽生尚代 サラサーテ: 「ツィゴイネルワイゼン」他

*主な活動: 第59回全日本学生音楽コンクール審査員

*主な研究課題: アンサンブルの中でのヴァイオリンの役割、魅力、奏法
2005年度青山音楽賞(バロックザール賞)受賞

三 谷 美智子

1. 合唱指揮 韓国ソウル中央ロータリークラブ・大阪住吉ロータリークラブ 合同 2005年2月18日
2. NHK 学校教育合唱コンクール近畿ブロック小学校・中学校・高校審査員(まとめ役) 2005年9月
3. 大阪市立阪南中学合唱部発声指導 MBS 西日本大会出場 2005年12月25日

*主な活動: ・日本音楽教育振興協会常務理事/事務局長

・日本声楽発声学会関西支部理事/副支部長

・大阪ロータリー合唱団主宰/発声指導

・ヴォイストレーニング/合唱/歌曲講座 大阪市民学習センタ

若 林 正 史

1. 吉田雅夫先生追悼演奏会 2005 年 5 月 4 日 東京芸術大学奏楽堂 R. シュトラス「あすの朝」 op. 27-4、「万霊節」 op. 10-8 G. フォーレ「レクイエム」 op. 48 より「ピエ・イエズス」「アニュス・ディ」

*主な活動：第 10 回びわこ国際フルートコンクール審査員

第 59 回全日本学生音楽コンクール審査員

第 12 回日本フルートコンベンションコンクール審査員

【人文学部】

相 谷 登

1. 「離婚時における親権者指定について」家庭問題情報誌『ふぁみりお』（社）家庭問題情報センター 第 34 号 2005 年 4 月
2. 「教育現場における障害児の理解と対応」豊中市立小学校夏季特別研修（講師） 2005 年 8 月
3. 「高校生の問題行動の現状とその理解」大阪府私学生徒指導連盟第 6 支部研修（講師） 2005 年 10 月

*主な活動：a. 家族心理士・家族相談士資格認定機構審査員

b. 大阪府虐待防止アドバイザー養成事業企画委員

新 井 俊 一

1. “Die Bedeutung und Rolle des Bodhisattvas in Shinrans‘Reines Land’ Tradition”（筆者の 2004 年度英語論文“The Meaning and Role of the Bodhisattva in Shinran’s Pure Land Tradition”のドイツ語訳－訳者は Rev. Jotoku Thomas Moser）. *ShinDo Nachrichten*, Vol. 7. No. 3 September – December 2005, 2-10.
2. 「祈りの内実－如来の祈りと衆生の祈り」『日本仏教学会年報』第 70 号、2005 年、221-234。

口頭発表

1. 国際宗教史学会総会（2005 年 3 月、東京）のパネル・ディスカッション “Life and Religion : Bioethics Viewed from Oriental Perspective” にパネリストとして参加、“A Pure Land Buddhist View of Life and Bioethics”

という題で口頭発表。

2. 国際真宗学会総会（2005年9月、東京）のパネル・ディスカッション “The Role and Implication of Meditation in Contemporary Jodo Shinshu” にパネリストとして参加、“The Meaning of Meditation in Shin Buddhism” という題で口頭発表。

講演記録

1. 「縁起について」。武蔵野大学日曜講演集『心』第24集（平成17年4月1日発行）、37-54.

- * 主な研究課題：a. 真宗教義の研究
b. 真宗伝道学の研究
c. 仏教英語の研究

- * 主な学外活動：a. 浄土真宗本願寺派仏典翻訳事業校閲委員
b. 龍谷大学真宗学会評議員
c. 大阪外国語大学後援会会長

江 草 浩 幸

1. “The effect of binocular eye position on stereopsis with double images”
Koichi Shimono & Hiroyuki Egusa Japanese Psychological Research
Vol. 47 2005

- * 主な研究課題：a. 刺激－反応適合性効果
b. 色彩の心理的效果
c. 複数の感覚にまたがる注意の瞬き
d. 変換された視野への適応過程

嘉 戸 一 将

1. 「西田幾多郎と主権の問題」『京都大学大学文書館研究紀要』第3号 2005年3月
2. 「京都大学大学文書館の試み－公開・非公開基準論を中心に－」『大学所蔵の歴史的資料の蓄積・保存ならびに公開に関する研究 平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（C）(1)）研究成果報告書』2005年3月
3. 「明治初期における拷問廃止論から陪審制度論への展開について」『「法の支配」と「法治国家」－新世紀統治システムの型と文脈 平成15年度・平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)）研究成果報告書』2005年8月
4. 「西田幾多郎と主権の問題－国家の定礎の問題として－」北海道大学大学院

法学研究科附属高等法政教育研究センター・ワークショップ 2005 年 12 月 3 日 於北海道大学

- * 主な研究課題：a. 明治憲法体制における正統性の問題
 - b. 1930 年代から 1940 年代の法学と哲学における主権論の諸相
 - c. アーカイヴズ論
- * 主な活動：平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））共同研究「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」、研究分担者。

金 政 祐 司

1. 第 4 章「恋する・愛する」（Pp. 64-91）『男と女の対人心理学』和田実編 北大路書房 2005 年
2. 「青年期の愛着スタイルと感情の調節と感受性ならびに対人ストレスコーピングとの関連ー幼児期と青年期の愛着スタイル間の概念的ー貫性についての検討ー」『パーソナリティ研究』14, 1-16. 2005 年（審査論文）
3. 「自己と他者への信念や期待が表情の感情認知に及ぼす影響ー成人の愛着的視点からー」『心理学研究』76, 359-367. 2005 年（審査論文）
4. 「愛されることは愛することよりも重要か？ー愛すること、愛されることへの欲求と精神的健康、青年期の愛着スタイルとの関連ー」『対人社会心理学研究』5, 31-38. 2005 年
5. 学会発表（ワークショップ等）「青年・成人期での愛着スタイル研究のターゲットとなるものとは？」自主企画ワークショップ：「成人アタッチメント研究の最近の動向ーこれまで何が分かって、これから何ができるのか？ー」日本社会心理学会第 46 回大会（話題提供者として）22. 2005 年
6. 「青年期の愛着スタイルと友人関係での適応性との関連についてー友人とのペアデータをを用いてー」日本パーソナリティ心理学会第 14 回大会発表論文集、165-166. 2005 年
7. 「青年期の愛着スタイルと友人関係が適応性に及ぼす影響ー大学新生の孤独感と精神的健康の変化に影響を及ぼす要因について（1）ー」金政祐司・清水裕士・谷口淳一 日本社会心理学会第 46 回大会発表論文集 690-691. 2005 年
8. 「ペアデータに基づく熟年夫婦の研究（2）ー愛情の 3 要素とコミュニケーション態度が夫婦関係の満足度に及ぼす影響ー」金政祐司・三浦麻子・谷口淳一・小林知博・石盛真徳・清水裕士 日本心理学会第 69 回大会発表論文集

143 2005 年

9. 「友人関係での自己と他者の認知の差異ならびに再確認傾向がうつ傾向に及ぼす影響」日本健康心理学会第 18 回大会発表論文集 127 2005 年
10. 「青年期の愛着スタイルが恋愛関係の排他性と葛藤対処行動に及ぼす影響」日本グループ・ダイナミックス学会第 52 回大会発表論文集 164-165. 2005 年

* 主な研究活動：

- ・『イラストレーター恋愛心理学』齊藤勇編 第 6 章「愛に関するいくつかの理論」誠心書房 2006 年 4 月刊行予定
- ・「青年期の愛着スタイルと友人関係における適応性との関連：ペアデータを用いて」『社会心理学研究』に投稿中
- ・金政祐司・石盛真徳編「わたしから広がる社会心理学（仮題）」の原稿を執筆中 北樹出版 2006 年 9 月刊行予定
- ・「恋愛関係の排他性に及ぼす青年期の愛着スタイルの影響について」『社会心理学研究』第 22 巻 第 2 号 2006 年 11 月刊行に掲載予定（審査論文）
- ・平成 17 年度科学研究費補助金（若手研究 B）の対象研究テーマ「青年期の愛着スタイルが個人的ならびに社会的適応性に及ぼす影響－ペアデータからのアプローチ」についての調査を実施中

* 主な研究課題：a. 青年期の愛着スタイルが恋愛関係に及ぼす影響

- b. 青年期の愛着スタイルと社会的適応性との関連について
- c. 夫婦間の関係の特質をめぐる問題について
- d. 友人関係における自己・他者認知が対人関係に及ぼす影響

北 崎 契 縁

1. 『D. H. ロレンス書簡集 III 1912』吉村宏一・田部井世志子ほか 松柏社 2005 年 3 月 (L. パロウズ、W. デ・ラ・メア、E. ガーネット、A. ハリスン、M. ホルブルック、E. ウィークリー、F. ウィークリー宛ての各手紙の翻訳)
2. “Something Beyond the Inconsistency in *The Trespasser* : A Buddhist Viewpoint” と題して、10th International D. H. Lawrence Conference Santa Fe, New Mexico June 26-July 1, 2005 で口頭発表。
3. *Read & Write: Useful Expressions in English* (『読みから学ぶ英作文』) 横山三鶴・北崎契縁・塩田英子編著 松柏社 2005 年 4 月

*主な研究課題：

目下、ロレンス書簡集の翻訳（1914年、書簡集のV巻目）の編集者として、鋭意ロレンス研究会（京都）で翻訳作業に当たっている。また、ロレンスの旅行記の1つである *Mornings in Mexico*（1920-24）の輪読とその解釈を巡る研究を進めている。

北 野 裕 通

1. 西田幾多郎『善の研究』講読 西田哲学会第3回年次大会 石川県西田幾多郎記念哲学館 2005年7月23日
2. 「京都哲学の教育思想に学ぶ―禅と哲学」講義 第23回長野市教育会夏季大学 芋井小中学校 2005年7月27日

*主な研究課題：a. 禅と京都哲学

b. 人間存在の身体論的研究

木下（森光）有子

1. 「認知的際立ちから見る Prepositional Phrase Construction と Double Object Construction」『相愛大学研究論集』第21巻 2005年3月

*主な研究課題：a. 認知と言語の関係

b. 英語と日本語の比較研究

c. 日本における言語教育

桑 原 義 登

1. 『家族のための心理学』小林芳郎編著 分担執筆「6章4節 検査による理解」PP. 110-114、「11章2節 学校・社会適応障害と家族の心理臨床」PP. 195-199 保育出版社 2005年4月
2. 「指導がむずかしい児童の調査」PP. 19-28 信愛紀要第45号 2005年4月
3. 『和歌山子どもの虐待防止マニュアル』和歌山子どもの虐待防止協会編集 和歌山県 分担執筆「V. 機関連携の目的 PP. 22-24」2005年3月
4. 和歌山県地域福祉計画推進計画～「支え合いのふるさとづくり」に向けて～ 和歌山県 和歌山県地域福祉計画検討委員会委員 PP. 1-45 2005年3月
5. 有田市次世代育成支援対策行動計画～はばたけ！ありだっ子未来プラン～ 和歌山県有田市 有田市次世代育成支援対策行動計画策定委員会委員長 PP. 1-82 2005年3月

6. 御坊市次世代育成支援行動計画～みんなでそだてよう！うまれてよかった
まち ごほうプラン～ 御坊市 御坊市次世代育成支援行動計画策定協議会
委員 PP. 1-29 2005 年 3 月

- *主な研究課題：a. 最近の子どもの問題行動とその背景
b. 児童虐待による子どもへの影響と支援方法
c. 自閉症等の発達障害児者への支援

佐々木 豊

1. “The Struggle for Scholarly Objectivity: Unofficial Diplomacy and the Institute of Pacific Relations from the Sino-Japanese War to the McCarthy Era,” Ph. D. Dissertation, Rutgers University, October 2005.
2. 松田武編著『現代アメリカの外交－歴史的展開と地域との諸関係』所収第3章「アメリカ外交政策の策定」pp. 57-87、第12章「非政府組織（NGO）」pp. 263-274 ミネルヴァ書房 2005 年 5 月
3. 「現代アメリカ外交と NGO」『相愛大学研究論集』第 21 巻 2005 年 3 月
4. 「太平洋問題調査会の再評価（Re-evaluating the IPR: International Conference in Honor of Paul F. Hooper, Professor Emeritus, University of Hawaii）」於早稲田大学 1 月 30 日 コメンテーター
5. 「1950 年代米国の“赤狩り”と太平洋問題調査会の動向」関西政治史研究会（第 14 回例会）発表 於甲南大学 2005 年 4 月 23 日

- *主な研究課題：太平洋問題調査会（the Institute of Pacific Relations）の事務総長カーター（Edward C. Carter）の一次史資料を用いた伝記的研究

佐 野 正 彦

1. 「現代イギリスにおける若年労働市場の変容と『学校から職業への移行』」『相愛大学研究論集』第 21 巻 2005 年 3 月
2. 「イギリスにおける社会的排除とニート問題」教育科学研究会編『教育』4 月号、国土社 2005 年 4 月
3. 「イギリスにおける教育・訓練制度の階梯と接続関係の現状と改革課題－義務教育後の教育・訓練制度（Post-16）を中心に－」日本教育学会近畿地区研究会編『学校階梯の連携と接続』2005 年 8 月

- *主な研究課題：

日本および英国の「学校から労働市場への移行」実態と若者支援政策

1. 「現代イギリスの若年労働市場の変容と『学校から雇用への移行』」に關

する実証的研究」日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C）2004-2006

2. 「若年者の学校から雇用への移行過程の実態と支援政策に関する実証的研究」（共同）日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C）2004-2005（共同研究）

鈴木 徳 男

1. 「源師房「初冬扈從行幸、遊覧大井河。応製和歌」序注（上）」『相愛大学研究論集』第 21 巻 共著 2005 年 3 月
2. 「龍谷大学図書館蔵『俊頼口伝集』について」『中世の文学と学問』思文閣出版 2005 年 11 月

* 主な研究課題：平安後期の歌集・歌学書の研究

* 主な活動：a. 和歌文学会委員（論集編集委員）

b. 『佛教文学』（仏教文学会誌）編集委員

c. 俊頼髓脳研究会事務局

砂 川 博

1. 「重衡は救われなかったか—源平盛衰記論のために—」『相愛大学研究論集』第 21 巻 2005 年 3 月
2. 「聖戒は一遍・時衆批判とどう向き合ったか」『時衆文化』第 11 号 2005 年 4 月
3. 「一遍をめぐる奇跡・奇瑞—『一遍聖絵』をどう読むか—」『時衆文化』第 12 号 2005 年 10 月
4. 「阿弥陀寺院主四代・時衆・平家物語」『海王宮—壇之浦と平家物語』三弥井書店 2005 年 10 月
5. 研究発表「『一遍聖絵』の詞と絵」第 6 回時衆文化研究会 於遊行寺 2005 年 12 月

* 主な研究課題：a. 『一遍聖絵』と時衆教団の研究

b. 『平家物語』の成立研究

* 主な活動：『時衆文化』（年 2 回、4 月、10 月刊行）編集長

孫 久 富

1. 『東西の恋愛文芸』（共著）国際高等研究所
2. 研究発表 国際シンポジウム「国見歌の変貌—記紀・万葉集と詩経・楽

府・賦との比較を中心にー」北京大学日本文化研究所と日中人文社会科学学会の共催 2005 年 9 月 9 日

3. 講演「記紀・万葉の国見歌と大陸文化」日本大学文理学部 2005 年 11 月 14 日

高 木 学

1. 「戦後地域開発史における構造改革特区の意義と可能性」『相愛大学研究論集』第 21 巻 2005 年 3 月

* 主な研究課題：a. 地域活性化活動の実証的研究
b. U ターン・I ターン現象の社会学的考察

千 葉 真 也

1. 「『国号考』の成立について」第 22 回鈴屋学会（口頭発表）松阪市本居宣長記念館 2005 年 4 月 17 日

* 主な研究課題：a. 本居宣長を中心とする国学の実証的研究
b. 伊藤仁斎など、近世京都における学者文人の日常生活・文学活動の研究

* 主な活動：a. 鈴屋学会常任委員
b. 『鈴屋学会報』編集委員
c. 『近世文芸』（日本近世文学会）編集委員

David Blake Willis

Journal Articles

1. "Review Symposium: Educating Global Citizens for Social Justice? Three Perspectives," *Race, Ethnicity and Education*, Vol. 8, No. 2, July 2005, pp. 231-242.
2. "Communicating With Japanese Students: Understanding Cultural Influences on Language and Behaviour," with Fumiko Kondo, *TESOL Intercultural Communications*, Volume 1, Issue 3, January 2005

Book Chapter

1. "Americanization: The Cultural Colonization of the World?" in Takeshi Matsuda, ed., *American Diplomacy and Foreign Relations*. Trans by Hitoko Fujishige (Kyoto: Minerva, 2005)

Annual Research Report

1. "Renaissance and Empowerment in Dalit Communities of South India : Awakening and Resistance to Traditions," in the Series, Race and Caste in India and America : Case Studies of Power, Community, and Psyche. Soai Daigaku Kenkyu Ronshu (Annual Research Report of Soai University), Vol. 21, March 2005

Transnational Media

1. "Hiroshima Spirits, Nagasaki Voices : Learning from the First Ground Zeroes," with Walter W. Enloe, Common Dreams (www.common-dreams.org), August 4, 2005
2. "The Other David, Roots, Madurai, Learn from the Moment, Dalits : Struggle and Caste Liberation, Have You Eaten?, Let's Beat the Drums : Motivating and Mobilizing, Constructive Work : The Brick-Making Site, Touching, The Kilvenmani Massacre, Tsunami Again, and No Conflict, No Compromise." All entries on "David Albert and Aliyah Shanti India Log" (shantinik.blogspot.com), Archives February-March 2005

Teresa Cox

*研究課題：

Differences in the academic systems and academic life in Japanese and American universities, as experienced by Japanese "ryugakusei", and academic strategies these students used during study abroad. Publication (34 pages) in press for March 2006.

鳥井正晴

1. 「句あるべくも4」『門』第10号 鎌倉漱石の會 2005年3月
2. 「日本近代文学と蟬の声」『毎日新聞夕刊』2005年9月9日
3. 「解説」金正勲翻訳『明暗』汎友社 2005年7月10日
4. 「句あるべくも5」『門』第11号 鎌倉漱石の會 2005年10月
5. 「漱石漢詩考(一)ー詩思查かに在りー」『会報漱石文学研究第二号』2005年11月20日

*現在の研究課題：漱石文学全般

橋 元 淳一郎

1. 『熱力学ノート』講談社 2005 年 7 月
2. 『きめるセンター物理 I』学習研究社 2005 年 6 月
3. 「アインシュタインの 100 年」相愛大学公開講座 2005 年 9 月 16 日

*現在の研究課題：a. 時間論 b. 科学論 c. 物理教育

藤 谷 忠 昭

- *主な研究課題：a. 高齢者施設に対する第三者評価の意義
b. 住民と行政との協働によるまちづくりの可能性
- *主な活動：介護保険市民オンブズマン

本 多 至 成

1. 研究発表 第 19 回国際宗教学宗教史学会議世界大会研究発表「敦煌文献とアビダルマ大毘婆沙論」東京・プリンスホテル 2005 年 4 月 25 日

*主な活動：

講演および講座 人文学部公開講座「海と金子みすゞ」2005 年 11 月 19 日、ロータリークラブ講話「宗教と科学」2005 年 11 月 30 日
ボランティア等の社会活動 老人ホーム慰問 大阪咲洲養護老人ホーム
2005 年 12 月 14 日、清掃活動（アジア協会のボランティア活動支援）2005 年 10 月 26 日 ニュートラム「中埠頭」一帯の清掃

山 下 昇

1. 現代英語文学研究会編『〈境界〉で読む英語文学』「ネラ・ラーセン『バッシング』における人種、ジェンダー、セクシュアリティ」開文社 2005 年 10 月
2. シンポジウム（講師）「英米文学をどう読み、どう教えるか」関西英語英米文学会第 50 回大会 関西学院大学 2005 年 7 月 16 日
3. 講演「アメリカ人の人間観」相愛大学人文科学研究所学外公開講座 恵光寺 2005 年 9 月 24 日

*主な研究課題：ジェンダーとアメリカ文学

*主な活動：司会 日本アメリカ文学会第 44 回全国大会第 5 室トニ・モリスンに関する研究発表 2 件 2005 年 10 月 16 日 北海学園大学
日本ウィリアム・フォークナー協会評議員、日本アメリカ文学会
大会運営委員、関西支部評議員

山 本 和 明

1. 「古典と近代の狭間で」(調査研究シンポジウムの発表内容)『調査研究報告』第26号 国文学研究資料館 2005年11月
2. 叢書「リプリント日本近代文学」第1期『新編稗史通』『開化問答』『開化問答二編』『復讐浮世亀山』各単著解題執筆 国文学研究資料館発行 平凡社販売 2005年9月
3. (書評) 徳田武著『近世近代小説と中国白話文学』『日本文学』54-7 2005年7月
4. (発表)『松飾徳若譚』に關することども 仮名垣魯文研究会第2回大会 2005年1月
5. (発表) 調査研究シンポジウム「調査収集30年の成果と展望」(パネラー) 国文学研究資料館調査員会議 2005年5月
6. (発表)「松の栄千代田の神徳」について 仮名垣魯文研究会6月例会 2005年6月
7. (発表) 野崎左文写「稗史年代記」について 仮名垣魯文研究会9月例会 2005年9月
8. (その他)「湾岸点描」大学@OSAKA (大学コンソーシアム大阪)掲載 2005年10月

*主な活動

- a. 科学研究費基盤研究B1「原典資料の調査を基盤とした仮名垣魯文の著述活動に關する総合的研究」(研究代表者谷川恵一)研究分担者
- b. 大学共同利用機関法人国文学研究資料館共同研究員(テーマ「開化期戯作の社会史研究」)
- c. 日本文学協会委員(2005年度)

山 本 幸 男

1. 「藤原良継・百川ー時代を変えた式家の俊英ー」 栄原永遠男編『平城京の落日』〈古代の人物・第3巻〉所収 清文堂出版 2005年12月

*主な研究課題：

- a. 写経所文書の復原的研究
石上英一・西 洋子編『正倉院文書論集』(青史出版)の「書評と紹介」を執筆。『日本歴史』近号に掲載予定。
- b. 奈良朝仏教教学史の研究
「玄昉将来経典と「五月一日経」の書写」を執筆。『相愛大学研究論集』

第 22 卷（2006 年 3 月）に掲載。

c. 古代難波地域の実態的研究

横 原 恭 士

1. 「言語による情報伝達についての一考察－文字のエントロピーと次文字の予測から－」『相愛大学研究論集』第 21 巻 2005 年 3 月

* 主な研究課題：a. 言語と情報の研究

b. 情報の概念の研究

c. 芸術の情報研究